

大規模地震に備える

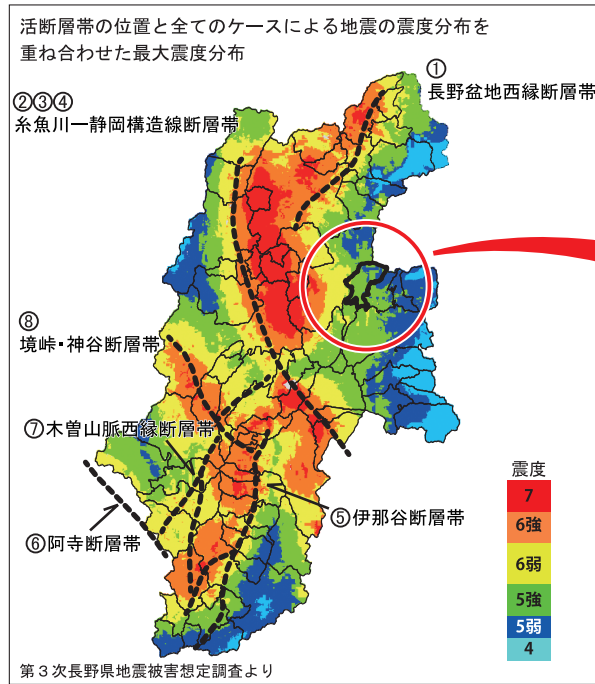
長野県内で予想される大規模地震

長野県内には地震の危険度が高いとされる糸魚川-静岡構造線断層帯をはじめ多くの活断層があります。【右図参照】

こうしたことから、長野県ではこのような大規模地震の発生に備えるため、平成27年3月に「第3次地震被害想定調査」の結果を公表しています。

この調査では、県内に大きな被害をもたらす地震として、糸魚川-静岡構造線断層帯を含む8つの活断層型地震と東海地震、南海トラフ巨大地震を想定しています。

これらの地震のうち、東御市に最も大きな影響を及ぼす地震は糸魚川-静岡構造線断層帯の全体が揺れた場合の地震で、最大6弱が想定されています。



東御市の地震別最大震度と発生確率の長期評価

国の地震調査研究推進本部（文部科学省）でも、主要な活断層帯の調査が行われており、各地震における「活断層及び海溝型地震の長期評価」による地震発生確率は次のとおりとなっています。

種類	地震名	第3次長野県地震被害想定調査		「活断層及び海溝型地震の長期評価」による地震発生確率※	
		地震の規模 (M)	東御市の最大震度	30年以内の発生確率	予想規模 (M)
内陸型地震 (活断層型)	①長野盆地西縁断層帯	7.8	5弱	ほぼ0%	7.4~7.8程度
	②糸魚川-静岡構造線断層帯 (全体)	8.5	6弱	14%~30%	7.6程度
	③糸魚川-静岡構造線断層帯 (北側)	8.0	5強		
	④糸魚川-静岡構造線断層帯 (南側)	7.9	5弱		
	⑤伊那谷断層帯 (主部)	8.0	4	ほぼ0%	8.0程度
	⑥阿寺断層帯 (主部南部)	7.8	3	ほぼ0%	7.8程度
	⑦木曾山脈西縁断層帯 (主部北部)	7.5	4	ほぼ0%	7.5程度
	⑧境峠・神谷断層帯 (主部)	7.6	4	0.02%~13%	7.6程度
海溝型	想定東海地震	8.0	5弱	—	—
	南海トラフ巨大地震 (陸側)	9.0	5弱	70%~80% (10年以内30%程度)	M8~9クラス

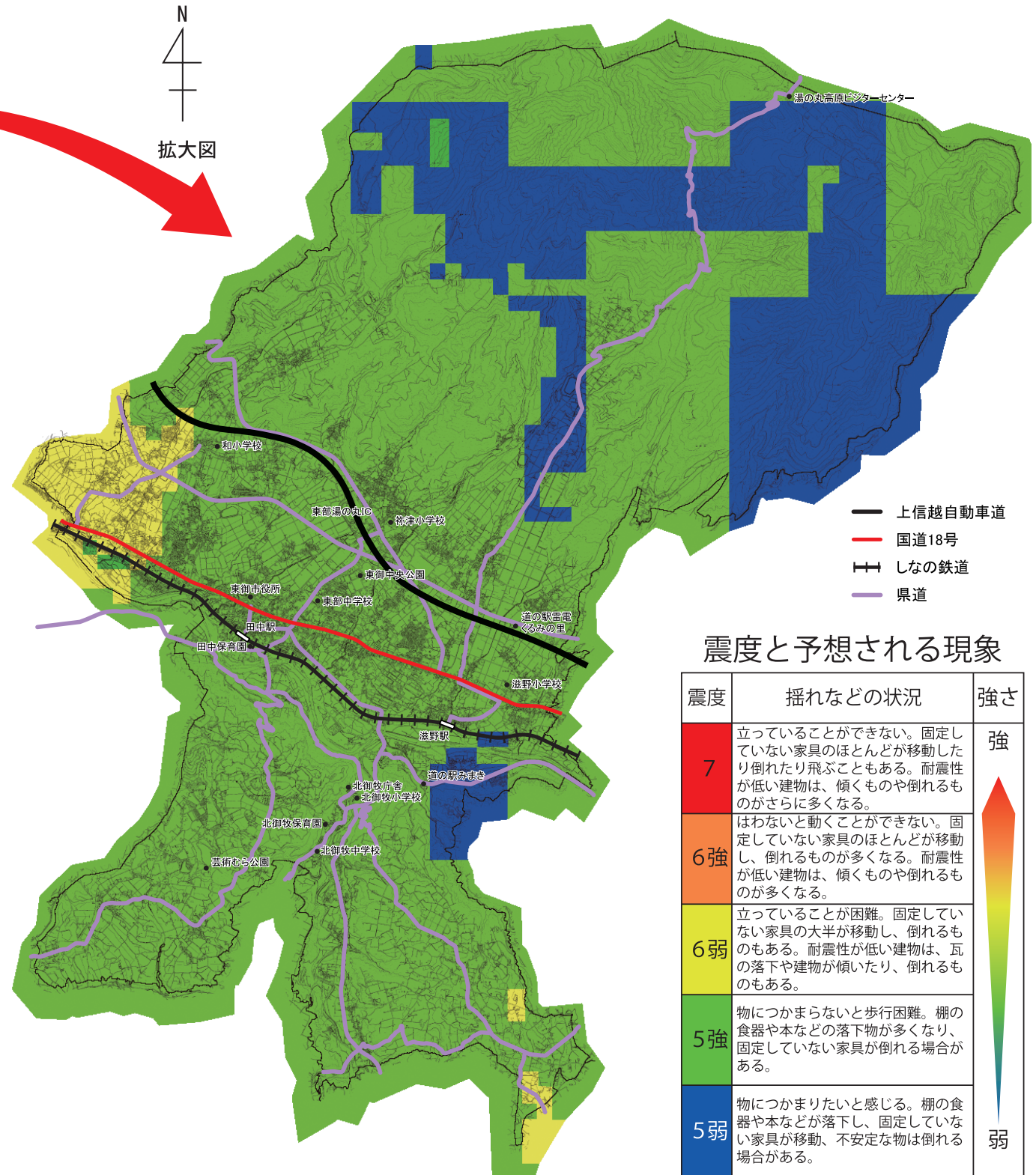
※活断層及び海溝型地震の長期評価(算定基準日:令和3年(2021)1月1日/地震調査研究推進本部)による「糸魚川-静岡構造線断層帯」の地震発生確率は、複数の区間で評価されている中で、最も発生確率の高い区間(中北部区間)を掲示しています。

糸魚川-静岡構造線断層帯(全体)による東御市での建物被害、人的被害、ライフライン被害等の詳細内容はQRコードをご覧ください



最大震度予測図

この最大震度予想図は、左記図面の第3次長野県地震被害想定調査から東御市に最も大きな震度が予測される②糸魚川-静岡構造線断層帯(全体)の地震が発生した場合の予測震度を250mメッシュ単位で地図上に色分けし表示したものです。



震度と予想される現象

震度	揺れなどの状況	強さ
7	立っていることができない。固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたり飛ぶこともある。耐震性が低い建物は、傾くものや倒れるものがさらに多くなる。	強
6強	はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。耐震性が低い建物は、傾くものや倒れるものが増える。	
6弱	立っていることが困難。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。耐震性が低い建物は、瓦の落下や建物が傾いたり、倒れるものもある。	
5強	物につかまらなさと歩行困難。棚の食器や本などの落下物が多くなり、固定していない家具が倒れる場合がある。	
5弱	物につかまりたいと感じる。棚の食器や本などが落下し、固定していない家具が移動、不安定な物は倒れる場合がある。	弱